

- ▶ 国際化が進展する中で、青少年が、自らが国際社会の一員であることを自覚し、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々と共生していくことが重要な課題。
- ▶ 青少年に対し、国内外における異文化体験や共同生活体験等の機会を充実させ、次代を担うグローバル人材の育成につながるきっかけを提供していくことが必要。

平成9年6月 デンバーサミット「日独青少年交流の強化についての共同発表」

[日]橋本龍太郎総理大臣×[独]コール首相

両首脳は、両国の若い世代が交流できる可能性を拡大し、青少年期に相手国とその文化を自ら体験する機会が与えられるよう尽力する。

両首脳は、青少年交流を日独文化関係の一つの重点事項と認識している。両首脳は、関係諸機関に対し、青少年・生徒・学生・勤労青年の交流を活発にするためにあらゆる方策を探るよう委ねる。

平成14年7月 「日韓共同未来プロジェクト(青少年交流の推進)」

[日]小泉純一郎総理大臣×[韓]金大中大統領

(略) 1. 基本的コンセプト

○ W杯の日韓共同開催の成功を記念し、今後、両国間の交流を更に推進することを目的として、両国政府が必要な支援を行う。

○ W杯を記念して、「青少年交流」及び「スポーツ交流」の日韓共催案件を支援対象とする。

2. 支援の具体的内容

○ 「青少年交流」支援

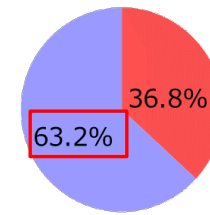
・日韓間の青少年交流助成の推進。

▶ 若者の内向き志向が課題。

・ 高校生のうち約4割が「留学したい」、約6割が「留学したいと思わない」

● 海外に留学したいと思うか

● 留学したいと思わない理由



■ 留学したい

■ 留学したいと思わない

「言葉の壁」(約5割)

「魅力を感じない」(約4割)

文部科学省「平成29年度 高等学校等国際交流状況等調査」

青少年国際交流推進事業 6事業@6,977千円

相手国政府との合意に基づき、青少年の交流（派遣・受入）の機会を提供。

日独交流（昭和47年度～）

● 概要

青少年指導者、勤労青年及び学生青年リーダー等が、それぞれのテーマに基づき両国の教育環境や文化を学びながら交流を実施。

● 事例

青少年指導者を対象に、子供の貧困やメディアリテラシー等の各々のテーマに基づき、教育現場視察等を通じた相互理解を促進。

日韓交流（平成14年度～）

● 概要

韓国語又は日本語を第2外国語として学ぶ高校生が、歴史や文化を学びながら、交流を実施。

● 事例

双方の高等学校の見学や授業・部活動等への参加、文化施設の見学等を通じて、相互理解を推進。

地域における青少年の国際交流推進事業（平成28年度～）

2か所@3,109千円

地域の歴史・文化体験等を通じて、外国人と英語で交流する機会を提供。

● 概要

文化の異なる複数の国から青少年を招聘し、一定期間、小・中・高校生が英語で宿泊を伴う共同生活を体験する機会を提供

● 事例

- ・ 参加国の文化紹介や世界的な課題に対するディスカッションを通じた、海外に対する関心の醸成。
- ・ 英語で地域の魅力を紹介するプログラムを実施し、地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供。
- ・ 外国人との共同生活を体験することにより、英語学習への抵抗感を減少。

アウトプット(活動目標)

- ・ 青少年及び青少年指導者に国際交流の機会を提供する事業者数

アウトカム(成果目標)

- ・ 「青少年の国際交流の推進」事業に参加し、交流を行った日本の青少年の外向き志向の平均が10%以上増加
また、事後アンケートにおける外向き志向回答割合が80%以上

インパクト(国民・社会への影響)

- ・ 日独間及び日韓間の青少年による、相互理解の促進
- ・ 地域への愛着を持ったグローバル人材の育成や、英語学習へのモチベーションの維持向上。